大阪北部産業界

大阪北部に広がる北摂地域は、多くの企業の集積と交通の要所として、大阪経済の一翼を担っている。製造業に加え、それを支える周辺産業も活発だ。大阪市内のベッドタウンとして発展した市も多く、多くの住民を抱える地域でもある。また、大阪北部に位置する淀川・東淀川・西淀川の淀川3区は、多くの製造業が集積し、大阪経済の中枢といえる地区となっている。その大阪北部の地域経済トピックスを紹介する。

インフラ充実で、地域の利便性向上

都市型空港、改修で活性化 期待

大阪国際空港（伊丹空港）のターミナルは魅力と利便性向上に向け改修工事が進む

【伊丹空港】

大阪国際空港（伊丹空港）は、大阪府北部の豊中市、伊丹市と池田市、兵庫県の伊丹市にまたがり立地する。訪日外国人観光客でにぎわう関西国際空港（関空）と違い、国内線のみの発着だが、大阪市内から近い利便性から国内線の基幹空港として強い需要がある。伊丹空港の運営は、4月から関空とともに、オリックスやフランスのヴァンシ・エアポートなどが設立した関西エアポートなど公設民営に移野市）に移った。スピードや安全性に期待が集まる。

現在、伊丹空港のターミナルは改修工事が進む。2020年の東京五輪・パラリンピックでの国内線需要増加に向けて、利用客の利便性を高めるとともに、耐震性・防火性など安全性を強化する計画だ。9月にはターミナルビルの解体工事を開始し、18年春に中央エリアを先行開業、20年8月に全面開業する。

改修のテーマは「スピーディーでスマート」。都市型空港として、利便性が高いイメージを、従来、2方向に分散していた到着口を2階中央に集約する。歩行者用の高架は大阪モノレールやバス、タクシーなど地上交通機関に乗り換えやすく改良し、バス・タクシー乗り場の再配置も進めて利便性を高める。

スムーズな移動のため動く歩道の増設にも取り組む。横断歩道橋などに屋根を取り付けるなど、細やかな配慮も行う。

空港としての機能も底上げを図る。出発手続きをスムーズにするため、預け入れ荷物のセキュリティチェックを自動で行うインフラ化や国内線の搭乗ゲートを増設する計画だ。9月には、国内線のみの発着だが、大阪市内から近い利便性から国内線の基幹空港として強い需要がある。伊丹空港の運営は、4月から関空とともに、オリックスやフランスのヴァンシ・エアポートなどが設立した関西エアポートなど公設民営に移野市）に移った。スピードや安全性に期待が集まる。

現在、伊丹空港のターミナルは改修工事が進む。2020年の東京五輪・パラリンピックでの国内線需要増加に向けて、利用客の利便性を高めるとともに、耐震性・防火性など安全性を強化する計画だ。9月にはターミナルビルの解体工事を開始し、18年春に中央エリアを先行開業、20年8月に全面開業する。

改修のテーマは「スピーディーでスマート」。都市型空港として、利便性が高いイメージを、従来、2方向に分散していた到着口を2階中央に集約する。歩行者用の高架は大阪モノレールやバス、タクシーなど地上交通機関に乗り換えやすく改良し、バス・タクシー乗り場の再配置も進めて利便性を高める。

商業施設も空港の利便性評価を大きく左右する重要な収益源だ。

大阪・関西の商品や飲食メニュー を提供し、地域振興に役立てる。

航空機が間近に見える展望デッキの拡張も行い、地域住民にもより親しまれる空港を目指す。

航空会社が19席多く、搭乗率の増加に対応した。

E190型機は小型のリージョナルジェットだが、天井が高く大型機と同水準の座席空間の居住性を実現。座席数の増加を可能にした。国内線で格安航空会社（LCC）を含めた競争が激化している中、付加価値で勝負する姿勢を打ち出している。全席で本革シートを採用し、高級感を演出。ビジネス客の利用も多いことも受け、JALシリーズ国内線で初めて座席にコンセントを備えた。

ジェイエアは5年から2019年までにE190型機を7機、E170型機を2機、計9機を導入する。オプションの計4機も発注している。E190型機は伊丹千里中央駅（大阪府豊中市）から伊丹・仙台間（伊丹1日から伊丹・仙台間）を導入する。ビジネス客や帰省客などが多く、比較的長距離で搭乗率が高い路線が導入基準だ。

ANA、JALは、貨物と北大阪急行電鉄（通称・北急）の延伸計画が進む。鉄道網の充実で、競合航空会社の路線に加え、新幹線の利用も考慮し、需要が見込める路線に投入していく。都市部に近く、効率のよい長距離移動につなげられる伊丹空港の立地を生かした戦略だ。

【鉄　道】

大阪北部はJRや私鉄、地下鉄が網羅し充実している。そのうち、大阪市内にある北大阪急行は、2020年度に延伸部分を開業する。現在の最北端の千里中央駅（大阪府豊中市）から、さらに北に延伸し、箕面市から大阪中心部の梅田まで乗り換えなしで移動できるようになり、地域の発展につながると期待がかかる。

航空会社も需要の拡大を期待する

投資対象として注目

茨木市、太陽光発電に補助

箕面市に隣接する茨木市は、環境負荷低減への意識が高い自治体の一つだ。茨木市では2016年度に住宅用太陽光発電システムや家庭用燃料電池（エネファーム）、自然循環型ソーラーシステムなどの設置に対し、合わせて250万円の補助金を予算化した。太陽光発電システムは1キロワットあたり補助額が40キロワット未満の場合は5万円で4キロワ

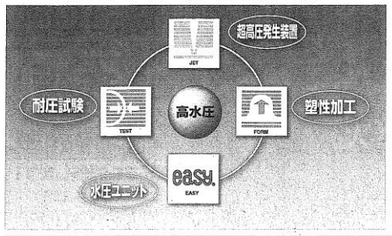
一方、国は今後の太陽光発電システムの普及拡大を図り、16年度の「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス支援事業（ZEH）」公募条件を決定した。余剰買い取り方式による売電を行う場合に限られるが、太陽光発電が10キロワット以上であっても2台目補助金対象とする方針だ。買い取り価格は産業用（10キロワット以上）が1キロワットあたり24円、住宅用（10キロワット未満）を31円とした。

一般的に10キロワット以上の太陽光発電は生産用とされ、固定価格買い取り期間が住宅用の倍になるため、長期的な収益が見込めるとの観点から、ソーラーパネルの設置が増えているとみられる。

マイナス金利の影響や株価低迷が続く現在、設備の導入や設置に関する資金は、低金利な住宅ローンなどへ調達することが可能になるため、今後も太陽光発電は優先投資対象として注目される。

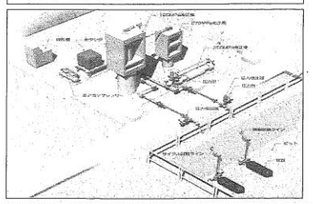
環境に優しい "高水圧" を活かした技術

HYPREX®

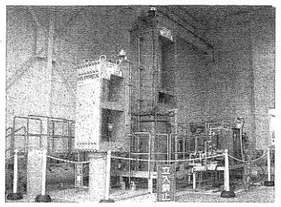


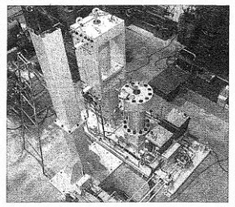
TEST

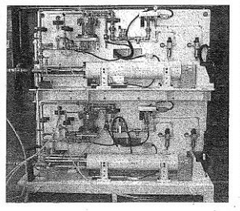
「各種圧力容器の内圧疲労試験機」



「高水圧」「高精度」によるさまざまな用途に対応可能な "水圧試験機"







株式会社 山本水圧工業所
〒561-0835　本社・工場　大阪府豊中市庄本町2丁目8番8号
TEL.06(6334)4651㈹　FAX.06(6331)2516
E-mail :yamasui@hyprex.co.jp

http://www.hyprex.co.jp/
〒105-0013　東京営業所　東京都港区浜松町2丁目3番24号
TEL.03(3459)8585㈹　FAX.03(3459)8769
E-mail :yamasui-t@hyprex.co.jp

大阪の元気をものづくり企業

日刊工業新聞
THE NIKKAN KOGYO SHIMBUN
6月22日水曜日
2016年（平成28年）

大阪北部産業界

有力企業トップインタビュー

海外拠点の業務を拡大

山本水圧工業所
山本 知弘社長

耐圧試験機や高圧水を利用した成形加工設備のハイドロフォーミングマシン、パイプベンダー（曲げ加工機）を手がけ、蓄積してきた高水圧技術や塑性加工技術が強みだ。水圧試験機は高圧化のニーズを受け、長年にわたり世界的なブランドとして浸透している。

受注生産が主で、顧客は大手が中心。研究開発・試作用設備の受注は少し増えている。新規案件のほか、更新需要に応え、レトロフィット（性能向上）も請け負い、顧客からいただいた宿題に対応している。2015年にはものづくり・商業・サービス革新補助金（ものづくり補助金）の交付対象に選ばれ社内の試験設備の高度化を進めてきた。今後も水圧の高圧化やシール技術の向上、曲げ加工の高精度化に取り組む。

ベトナムの海外拠点では、今年から技術部の発案で設計業務を拡大し、装置の強度計算や構造設計といった業務もできるようにする。日本の設計者がリーダーとなり、現地の担当者をまとめる。これまで現地には管理職が赴いていた。課長級の社員がマネジメント能力を身につけ、3年の間に次長、部長と昇進したケースもある。日本での人材育成にも効果が出ている。